



尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

校長通信

輝け！シン尾花沢中

真理のとびら うちひらく 希望にもえる わが学園

第129号
令和7年
11月20日

「いのちの教育講演会」振り返りからみる、尾中生の成長①

第110号でもお伝えしました、10月16日（木）に行われた「いのちの教育」講演会の振り返りがまとまりました。読むと、助産師である後藤敬子先生のお話を聞いて、尾中生がいかに多くの大切なことを学んだかが分かります。次に紹介します。



■保護者の方への感謝を踏まえた今後の生き方について

- ・僕はいのちについて学び、親に感謝して生きていかなければならない、と思いました。これから大人になっても、親を大事にしていきたいです。（2年男子）
- ・ときどき、お母さんに注意されてイライラするけれど「心配してくれているからだ」と分かったので、「お母さんに感謝してもっと大切にしよう」と思いました。（2年女子）
- ・親に成績のことを言わるとイライラしますが、それも愛情で私のことを想って言っているので「感謝しなければいけない」と思いました。これからは、自分や周りの人たちの命を大切にして、自分の行動に責任をもって生活していきたいです。（3年女子）
- ・私も成績について両親からいろいろと言われたとき、暴言を言ってしまったことがあります。「自分も頑張っているのに…」と思っていたけれど、今は「ひどいことを言ってしまった…」と反省しました。また、友達や周りの人に恋人やパートナーができて羨ましいと思ったり、ズルいと思ったりしたこともありました。でも、1人の女性と1人の男性が出会い、奇跡の確率で人は出会いを経験していくことを知りました。これからはもっと相手の「想い」に寄り添いたいと思います。（3年女子）
- ・親が「幸せに生きてほしいから」という願いで自分を産んでくれたと、心から感じました。これからも、親に感謝を示すために、自分にできることを考え、親が何もしなくていいような自立した生活を心がけていきたい。（3年男子）
- ・お母さんとお父さんが会って私が産まれたことは奇跡で、私の命を大切にしなければいけないな、と思いました。そして、自暴自棄にならず出会った人とのつながりを守るためにしっかり言葉で関わっていこうと思いました。（3年女子）
- ・以前から「お父さん、お母さんが会ったこと、そして自分が産まれてきたことは奇跡である」ことに気付いていました。これからは、お父さん、お母さんをはじめとした身の回りの人々にたくさん手を差し伸べていきたいです。そして、人に感謝でき、人から感謝される人間を目指していきたいです。（3年女子）
- ・親にいつも助けられていると知りました。これからは、自分も親を助けたり支えたりしていきたいです。また、感謝の気持ちを忘れず相手を思って生活していきたいです。そして、将来のために努力して幸せな人生を送ることができるようになります。（3年男子）

次号でも、尾中生の振り返りを紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】